

とうぼう

navi

社会科学
情報

Contents

- 新刊問題集の活用案『Winning COM.-PASS 資料読解 世界史〈前近代編〉』の特徴と活用の提案 1
- 新刊問題集の活用案『Winning COM.-PASS 資料読解 日本史〈前近代編〉』の特徴と活用の提案 4
- 共通テスト新科目を受けての活用案 共通テストに向けた『Winning COM.-PASS 地理の整理と演習』の
授業活用例・活用案 7
- 共通テスト問題と『フォーラム公共』を利用した授業例…経済学習の導入として「起業」を学ぶ 10

新刊問題集の活用案

『Winning COM.-PASS 資料読解 世界史 〈前近代編〉』の特徴と活用の提案



世界史探究問題集
『Winning COM.-PASS 資料読解
世界史〈前近代編〉』

お茶の水女子大学
教学IR・教育開発・学修支援センター
講師

うえ ぼら あつ し
植原 督詞

(『Winning COM.-PASS 資料読解 世界史
〈前近代編〉〈近現代編〉』ほか編集委員)



湘南学園中学校・高等学校
教諭

やまね ゆう き
山根 友樹

(『Winning COM.-PASS 資料読解 世界史
〈前近代編〉〈近現代編〉』編集委員)

1 本書の目的と特徴

歴史教育の目的のひとつに「歴史的リテラシー」の育成が挙げられる。それは歴史資料を批判的に精読し、資料内容をそれが書かれた時代に位置づけながら考察できる読解力であり、他でもない歴史系科目でしか育成できない教科固有のリテラシーとされる。しかしその育成は、優れた歴史家を養成するためではなく、社会科の目標である民主的な市民の養成に欠かせないために、歴史教育の目的のひとつに位置づけられてきた。というのも、資料の出所を問い、その資料の

著者の意図や目的を、社会的な文脈や背景に照らして明らかにすることは、SNSなど情報の氾濫する現代社会において、民主的で合理的な知的判断のできる市民に求められるスキルだからである。

『Winning COM.-PASS 資料読解 世界史〈前近代編〉』(以下、本書)は、歴史的リテラシーの育成をめざし、大学入学共通テストや大学の個別試験で出題される思考力重視の資料問題に対応するための問題集である。全問を思考力重視の資料読解問題で構成しており、生徒の資料読解力の育成を重視したつくりとなっている。

本書の巻頭特集は、〈近現代編〉と同様、以降の問題演習に活用できるように「出題の形式」「資料の特質」に応じた読解スキルのレクチャーページとなっている。

「資料の特質」編では、文献・地図・表・グラフの各資料形態に応じたポイントを解説しているが、「出題の形式」編では、共通テストにおける特徴的な出題形式を取り上げ、読解の仕方を丁寧に解説した。取り上げた出題形式とその出題例が以下である。

表 巻頭特集「出題の形式に応じた読解スキル編」で取り上げた問題形式

① 類似事例探究型	② 根拠選択型
類似する歴史上の事例を探究する (出題例) 資料中の考え方・概念に相当する世界史上の事例として適当なものを選ぶ。	根拠となる出来事・資料を選択する (出題例) 異なる歴史の見方に関してその根拠となり得る出来事として適当なものを選ぶ。
③ 意図考察型	④ 仮説検討型
資料の書かれた意図を考察する (出題例) 資料の下線部が書かれた意図について述べた文のうちから適当なものを選ぶ。	資料から立てた仮説を検討する (出題例) 次の仮説の根拠になると考えられる事象について正しい組み合わせを選ぶ。

- ① **類似事例探究型**……リード文・設問で取り上げられている出来事（テーマ）と類似する歴史上の事例を選択する形式の問題（例：仏教を利用して皇帝権力の強化を図る北魏の政策の考え方を挙げ、それに類似する歴史上の事例を選択する問題など）。
- ② **根拠選択型**……リード文・設問で示されている歴史の見方（解釈）に関して、根拠となる出来事・資料を選択する問題（例：英仏百年戦争の終結年の説（1453年か1558年か）について、各説の根拠と考えられる事象を選択する問題など）。
- ③ **意図考察型**……リード文・設問で取り上げられている資料の書かれた意図を考察し、選択する問題（例：19世紀ロシアの作曲家チャイコフスキーのパトロンが記した手紙について、その手紙の内容の意図を当時の国際関係から読み解く問題など）。
- ④ **仮説検討型**……リード文・設問で示された仮説に対して、その根拠となる価値や時代背景、出来事を検討する問題（例：「コロンブスはスペイン人である」との説は、ある思い込みに基づく誤った説であるが、その思い込みが生じた背景となる当時の価値観を選択する問題など）。

巻頭特集では、これらの出題形式の「読解の手順」および同様の出題形式の「練習問題」を掲載することで、生徒が自学自習でも資料読解のポイントをつかめる仕様となっている。そのため、巻頭特集は、本書で一貫して育成が目指されている資料読解力（歴史的リテラシー）の足場かけを提供するものといえるだろう。

巻頭特集での資料読解のポイントを手がかりに、生徒たちが進んで以降の問題演習や日常的な授業におけ

1 教師の悩みは尽きない

新課程のもとで学習した高校生を迎えた令和7年度共通テストでは、新たに「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」が設定された。

新課程の開始から初めての入試まで、一貫して注目されてきたのは「歴史総合」である。近現代の人類のあゆみを、「日本史」「世界史」という枠組みにとらわれることなく、「概念」に着目して総合的に学ぶ必修科目は、授業実践だけでなく、入試での取り扱われ方もふくめ、いまだに議論と研究、模索が続けられている。

しかしながら、歴史の学びの質的転換を要求する現行の学習指導要領のもと、「探究」の名を冠して登場した「世界史探究」「日本史探究」もまた、従来のB科目とは異なる授業・入試問題のあり方が模索されなければならない。『令和7年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書』（大学入試センター、2025）によれば、世界史探究の作題にあたって心掛けたこととして、次のように説明されている。

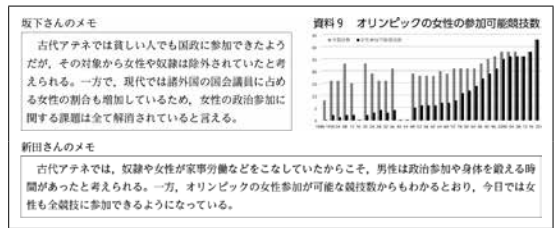
課題を追求したり解決したりする活動を重視する「世界史探究」の目標に照らして、**大問ごとに共通のテーマを設定し、個別の歴史的事象の理解とともに、それらを比較検討して概念的理解へと昇華していくことを目指した**ことである。（中略）また、多様な資料によって示される多様な情報を読み取ることと正答に至る設問の設定についても、その実現を目指した。収集した情報を、歴史的な見方・考え方を働かせて読み取る技能は、世界史探究の授業の中でも習熟が求められているものである。したがって、**単純に知識のみで解答できるわけではなく、資料の読み取りを経て、これを知識と照合することで解答が導かれるような設問を提示した。**

2025年1月実施の共通テストは、「歴史総合、世界史探究」の初年度であり、従来のようなリード文や資料を読みこまずとも、知識さえあれば瞬間的に解答できる設問は鳴りを潜め、極めて「世界史探究」的なテストになったといえる。

また、国公立大・私立大でも探究型の思考力問題が増加し、出題校・出題者の問題意識を反映した、受験生に対して歴史総合や世界史探究での学びの成果を発揮させる良問がみられた。一方で、些末な知識を問う

大学・学部も依然として多数みられたことも事実である。大学入試の作成者・出題者には、「歴史総合」「世界史探究」に真摯に取り組む授業者や高校生が不利益を被ることのないような出題を目指してもらいたいののだが、こうした状況下で、令和8年度の大学入試に不安を募らせる受験生は少なくないだろう。

それは、生徒の進路指導に責任を持つ教師も同様だ。「歴史総合」「世界史探究」の授業実践のあり方、今なお不透明な大学入試対策の方向性……。特に、現場で耳にする悩みの第一位は、「資料」に関するものであろう。「歴史総合」や探究科目で、ひときわ目を引く「資料」。日常的な授業に資料を読み解く作業をどのように挿入するのか、そもそも限られた時間でどうやって資料を探せばよいのか？ さらにいえば、資料選定やその読解は、単元や授業のねらいに即していなければならない、ただ漠然と読むだけでは意味がない。なんらかの資料の読み解きを通じて、生徒にいかなる認識や気づきを獲得させ、またいかなる力を涵養すべきか？「資料」を活用することについての悩みは、教師にとって、単元や授業そのものの構成に関わってくる重大なテーマであるといっても過言ではない。その悩みにこたえようとするのが、本書である。



また、本書の解答・解説では、全問に解説をつけている。限られた時間で授業準備をしなければならない先生方にとって、充実した解答・解説があれば、それを土台に先生方の言葉で生徒たちに説明が行えるというのは大きなメリットにちがいない。

(2) 汎用性の高い大学入試対策問題集として活用

受験生は、タイミングに差異こそあれ、目指す大学と同レベルの大学の過去問題に取り組む。しかし、資料読解の出題が予想される大学の受験の際、十分な演習量を担保できるほど、資料読解の力を養うに足る過去問はまだ多くない。また、資料読解は、何度も同じ問題に取り組めば効果が出る性質のものではない。

そうした意味でも、資料読解に特化した本書は、入試対策のための問題演習の質・量ともに十分担保する。実際の過去問に取り組む直前期の使用が効果的であろう。また、上述の解答・解説により、生徒自身が該当単元の理解を深めることも可能となっている。

2 教師の悩みにこたえる問題集

(1) 「世界史探究」の授業で「演習問題」として活用

一番容易な方法である。授業の全てに資料の読み解きを取り入れるのは難しい、という先生方には、必要に応じて、本書の問題を抜粋しつつ活用いただきたい。

あるいは、ひとつの単元を学び終えたところで、「まとめ」として、本書の該当単元の問題に取り組むことも考えられる。基本的な知識の定着や整理が目的であれば既刊の『Winning COM.-PASS 世界史の整理と演習』、資料読解などより発展的な知識の活用や思考を要求したいのであれば、本書が望ましい。例えば、本書の4章「西アジアと地中海周辺の国家形成」では、アテナイにおける古代民主政の特徴を資料から読み解きつつ、現代と比較することでより深く理解できる構成になっている。

(4) 坂下さんと新田さんのグループでは、古代アテネと現代における主な相違点を調べるなかで、以下の資料4～9を見つけた。2人が資料4～9をもとに作成した次のメモについて正しいものを、後の①～④から選べ。

資料4 アリストテレス「政治学」

奴隷……は生きた財産である。……奴隷にとっては統治されるのが良いことである。……奴隷と家畜の利用には大差がない。なぜなら両方とも肉体によって人生の必要に奉仕するものだから。自然は自由人と奴隷の肉体を区別することを欲し、一方を不可欠な用途に課した頑強なものに作り、他方を、直立して、この種の仕事には向かぬが、戦時や平時の政治的生活に役立つように作っている。……あるものが生まれながらにして自由人であり、あるものが奴隷であるとするは、奴隷であることも正義にかなったことであることは明白である。

3 おわりに

上述のとおり、資料の読み解きを通じて、生徒にいかなる認識や気づきを獲得させ、いかなる力を涵養すべきか、という視点は欠かせない。その意味でも、本書には「資料をどのように活用するか」のヒントが散りばめられている。資料に対してどのように問いかけ、生徒に何を読み取らせるべきか。授業で用いる資料や定期考査作問のヒントが本書には眠っている。

また、各単元は、歴史の経緯を単調に追うのではなく、テーマに基づいて作問している。例えば4章はジェンダーに着目した作問、9章は鄭和に対する評価や“大交易時代”“大航海時代”という呼称など、歴史叙述の構築性を問う作問である。本書は「歴史をどのように／何のために学ぶのか」というヒントを、生徒も教師も得られるつくりになっている。歴史総合や探究科目に悩む先生方、なにより前途ある生徒たちの学びの糧になることを願ってやまない。(山根友樹)

『Winning COM.-PASS 資料読解 日本史 〈前近代編〉』の特徴と活用の提案



日本史探究問題集
『Winning COM.-PASS 資料読解
日本史 〈前近代編〉』

千葉県立津田沼高等学校
教諭

佐藤 克彦

(『Winning COM.-PASS 資料読解
日本史 〈前近代編〉』編集委員)



1

共通テスト「歴史総合、日本史探究」実施から思うこと

新課程で学んだ1期生が、令和7年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）を受験した。思考力・判断力・表現力を重視するテストであったこと、試験科目が大幅に再編されたことなどを受け、注目が集まった。

日本史は、従来の日本史A・日本史Bから「歴史総合、日本史探究」（以下、「歴史総合、日探」）に再編された。新科目の出題には、以前のセンター試験や共通テストと異なる特徴がいくつか見られる。すでに多くの教育機関や指導者らが問題を分析し、発信しているが、ここでは筆者が日常の授業や定期考査等の作問で意識していることを述べる。

(1) 大問ごとに生徒の学習場面が設定されている

受験者は、大問に設定された探究学習の文脈を理解し、知識を活用しながら、多様な資料を読み解き、考察する力が問われた。ここでいう「探究学習の文脈」とは、事実に基づく知識の有無ではなく、出題の意図を正確に読み取る手続き・方法に関する能力のことである。そのため、「正しい（または誤っている）選択肢を選ぶ問題」ではなく、「出題者の意図に沿った、最も適切な（または不適切な）選択肢を選ぶ問題」として出題されている。単に歴史的知識を問うのではなく、その知識を文脈に沿って活用できるかどうかを試された。

(2) 資料を活用する問題が多数を占めた

これまでも資料読解問題が出題されてきたが、その傾向がより強まったといえる。各問では、多様な資料

が出題されており、複数の資料を組み合わせ、解答を導くことが求められた。

また、出題された資料に着目すると、教科書に掲載されるような定番・頻出資料だけでなく、初めて目にする、いわゆる初見資料も、積極的に出題されていることがわかる。

加えて、令和7年度の「歴史総合、日探」では、文章資料が現代語訳されていたり、「大意」として提示されていたりする点も、特徴的であった（文章資料の出題については、今後もこのような傾向が継続されるのかは注視する必要がある）。

他にも、第3問[16]は、日本に現存する資料の中で、「高麗」という記述が示す国家を判断するという出題だった。「いつ・誰が・どのような意図で・どのような歴史叙述をしているのか」、その特徴を資料内容から丁寧に読み解き、知識と結び付けて解答を導くことが求められた。これは、歴史学という史料批判に通じるものであった。

(3) 抽象的な表現を用いた選択肢

すべてではないが、選択肢のつくり方として、具体的な出来事・人物・場所などの名称を明示せずに、抽象的に歴史的出来事や、時代の特徴が表現されていた。特に、中世を概観する第4問[23]では、「戦乱によって地位を高めた武家の棟梁」や「内乱を通じて成立した武家政権」などの抽象的な表現が用いられ、該当する時代、政治権力、その特徴などを判断させていた。また、試作問題では、大問中のそれまでの小問で活用した資料や導き出された知識を活用して、該当する時代の概念的な理解を問う出題もあった。個別具体的な知識だけでなく、時代の特徴を概念として理解

しているかを問うねらいたろう。

このように、具体的な出来事から時代の特徴を表現する『抽象化の思考』と、時代の特徴からそれに該当する具体的な出来事を導く『具体化の思考』とを往還できる深い理解が問われていた。

2

本書の内容と特徴

本書は2025年刊行の『Winning COM.-PASS 資料読解 日本史〈近現代編〉』（以下、〈近現代編〉）の続編にあたる。〈近現代編〉では、「日本史探究」の近現代と「歴史総合」を主な範囲とした。一方で、本書〈前近代編〉は、「日本史探究」の原始・古代から近世までの前近代を範囲としている。共通テストをはじめとする「歴総、日探」の大学入試に関しては、〈前近代編〉〈近現代編〉をセットで学習することで、全時代を扱うことができるよう構成されている。本書の特徴として、以下の3点を挙げる。

(1) 資料読解をメインとする問題構成

最大の特徴は〈近現代編〉から一貫して「資料読解」をメインとした問題で構成している点である。そのため、個別具体的な知識を一問一答形式で解答させたり、網羅的に扱ったりすることは極力避けている。

本書が目指すのは、生徒が学習した知識を活用して、多様な資料を読み解き、主題に正対しながら解答を導くことができる力の育成である。ここでの「資料を活用して解答する」とは、単純に資料を読解し情報を読み取ることに留まらない。情報の正確な読み取りが前提であり、むしろ、読解で得られた情報をもとに、作問者の要求に応えられているかを問っている。その意味で、本書は思考力重視型の問題集といえる。

学習指導要領においてはさらなる「資料の活用」が提案されているが、資料の扱いは非常に難しい。授業で取り扱うことのできる資料の数には時間的限界があるうえ、資料のどこに・どのようにして着目させるかによって、扱い方も変化する。そこで本書は、オリジナルの多種多様な資料問題を取り揃え、生徒の資料を読解する技能を高めることを意図している。

① 文章資料の扱い方

近年の共通テストでは、文章資料の時代や特性、作問者の意図に応じて、原文のまま掲載していたり、あるいは書き下し文にしていたりする。本書でも、文章資料を扱う際は、問う内容や資料の着眼点（資料文中のどこをキーワードとして読み解くか）などにあわ

せ、原文のままとする、書き下し文とする、資料の大意として示すなど、使い分けをほどこしている。

② 資料形態を問わず、幅広い資料を出題

本書では、文章資料以外にも、絵画や写真などの図像資料、グラフや表などの統計資料、地図など、多様な資料形態を扱っている。加えて、教科書でよく扱われる定番・頻出資料と、本書で初めて目にするような初見資料の双方を、バランス良く扱っている。

また、1章「日本文化のあけぼの」では、埋蔵文化財の発掘のインターンシップという場面設定で、「地域に残る遺構や遺物」を地域資料として活用する問題を掲載した。ある地域の歴史に触れ、身近な体験を入り口としながら、日本史全体を考える取り組みを意識した作問である。こうした多種多様な資料に触れることを通して、生徒の資料読解の練習の機会を設けているといえよう。

(2) 「資料読解の解法・スキル」を体系化！巻頭特集

本書の巻頭特集では、〈近現代編〉と同じく、資料の読解問題で求められるスキルや解法を類型分けし、レクチャーしている。このような資料読解のスキル・解法を体系化した試みは少ないのではないだろうか。

特に〈前近代編〉は、原始・古代～近世の方が、近代～現代よりも、文章資料の重要性が増すと考えている。

例えば、現在の私たちが記す手紙に形式があるように、当時の人々が記した手紙にも形式が存在し、時代特有の文章表現がある。そういった資料の書かれた時代や背景という視点に触れているのとそうでないのでは、読解の難易度が全く異なる。まずは巻頭特集で、資料読解の解法・スキルをおさえてから、以降の問題に取り組むことで、生徒は自身の力で資料読解のポイントを理解し、獲得できるはずである。

史料における「情報の読み取り」と「情報の説明」
1 史料の「情報の読み取り」のポイント
① 史料全体の大意（おおよその意味）をつかむこと 近代史料は難解な文題であることも多く、戸惑うかもしれないが、ゆっくりでよいので読み進めていくこと。時には、古語の知識や漢字の読みが必要になることもある。正確でなくてもよいが、一定程度の知識は必要である。大学の入学試験で出題された古語・難漢字の一部をp.7に収録したため、参考にしてほしい。
② 必ず注釈を確認すること 注釈は、わかりづらい表現・語句の意味が書かれていたり、箇所の特定につながる記号もあったりする。簡略と密接に関わる注釈もあるため、必ずチェックしよう。
③ 出典名や西暦からおおよその時代をつかむこと 史料の出典や西暦など、本文以外の文字や数字には、史料の理解を深める鍵が隠されていることも多い。資料が出された時期の特定につながるものもあるため、必ずチェックしよう。
2 史料の「情報の説明」のポイント
① 読み取った情報を別の言い方や概念で説明すること 問題を解く上で大切なのは、史料から読み取った情報を別の言い方で説明できることである。
例) 読み取った情報：「昭和2年 農夫の佐藤は農圃の農夫と力を合わせ田中様にも納付額減免を依頼した」 ↓ 読み取った情報を別の言い方で説明：「昭和2年 寄生地主に対して小作人らによる小作争議が行われた時期や文章の内容から、「農夫の佐藤」→「小作人」、「田中様」→「寄生地主」、「農圃の農夫と力を合わせて依頼」→「小作争議」と言い換えることができる。
この場合の言い換えを「一般化」とよぶ。史料で書かれた内容は、特定の人物や地域に関するものが多いが、史料問題ではこのような一般化や、別の概念に置き換えられるかを問う問題も多い。

(〈近現代編〉P.6 巻頭特集より)

(3) 時代を貫く「テーマ史」

〈前近代編〉では、特集として8つの「テーマ史」を設置している。原始・古代～近現代までの通史学習で身につけた力を、時代を貫くテーマから考察することで、知識を深化させ、歴史の多面的・多角的な見方を獲得することができるだろう。本書〈前近代編〉と〈近現代編〉の2冊で通史学習をした後に、まとめとして取り組むとより効果的と思われる。

また、テーマ史としては定番の「社会経済史」「外交史」などもおさえつつ、現代を生きる私たちが抱える社会的な課題から作問を試みた「災害史」「感染症・医療史」なども設けた。今日的な課題は決して歴史だけの関心ではない。地理的・公民的な見方・考え方も働かせるような、社会科全体を横断する出題となっている。生徒たちが、今を生きるうえで、どのように現代的な諸課題に向き合うべきなのかを生徒が考えるきっかけとなることを願ってやまない。

④災害史

1 自然災害史 考古学に関心のあるタツツキさんは近所の発掘調査現場を訪れ、調査員に現地を案内してもらいながらインタビュー調査を行った。

1 調査員へのインタビューで得た情報をもとに、あとの問いに答えよ。

(1) 図1の地層の観察として、適切なものを選び、
 ① 地層Aから陶磁器の破片が、また、地層Eから鉄製釘が出た。
 ② 地層Bから陶磁器の破片が、また、地層Dから瓦葺き瓦が出た。
 ③ 地層Cから銅製の刀先の一部が、また、地層Eから鉄製釘が出た。
 ④ 地層Dから銅製の刀先の一部が、また、地層Cから1円玉が出た。

(2) 下層部分について、同じ層から他にも出土品が見つかる。出土品について述べた文として適切でないものを選び、
 ① 他に茶碗も出土しているので、この村では茶の湯の文化が盛況していたと考えられる。
 ② 他にベトナム製のかんざし等の装身具や磁器品なども出土しているので、当時のこの村は山間部にありながら江戸の文化が流入していたと考えられる。
 ③ 他に様々な地方で製造された漆器や陶磁器も出土しているので、この村の人々が他の地域と行き来があったことが考えられる。
 ④ 他に製を伝える繻が出土しているので、この村の男性の髪型としてザンギリ頭が一般的であったことが考えられる。

調査員へのインタビューで得た情報

【1】図1では、上下の地層でその構成物が異なる境界に線が引いてある(★など)。

【2】軽石や火山灰を含む地層は、他の構成物は一切含まれておらず、軽石や火山灰のみが埋まっている。

【3】天明3(1783)年浅間山火噴火では大量の軽石が一気に噴出し、この周辺の土地に一瞬のうちに10cm以上降り積もり、甚大な被害を与えた。

【4】図1の★からは、一般の生活用品とともにビーアドロ(ガラス製)や茶碗の一部が出土している。

図1 遺跡の地層の断面を記した図面

地層A	現在の地表面
天明期(1783年)の浅間山噴火時の軽石	
地層B	
宝永期(1707年)の富士山噴火時の火山灰	
地層C	
5世紀の藤名川火葬場の軽石	
地層D	
地層E	

(P.78～79 テーマ史 ④災害史より)

界史双方の〈近現代編〉をセットで使えば安心だろう。一度に2冊持たせるとオーバーワークになってしまうとの懸念があるなら、「日本史探究」の授業進度にあわせて、原始・古代～近世の学習時は〈前近代編〉、幕末以降は〈近現代編〉をそれぞれのタイミングで持たせるのもよいだろう。

特集 資料読解の解法・スキル	
資料形態を問わず読解に必要なスキル編	2
資料の特性に応じた読解スキル編	4
史料における「情報の読み取り」と「情報の説明」	6
1 日本文化のあけぼの	8
2 古墳とヤマト政権	12
3 律令国家の形成	16
4 貴族政治の展開	24
文化史 ①古代の文化	28
5 院政と武士の躍進	30
6 武家政権の成立	34
7 武家社会の成長	40
文化史 ②中世の文化	48
8 近世の幕開け	50
9 幕藩体制の成立と展開	54
10 幕藩体制の動揺	64
文化史 ③近世の文化	70
テーマ史	
① 土地制度史	72
② 社会経済史	74
③ 外交史	76
④ 災害史	78
⑤ 女性史	80
⑥ 思想史	82
⑦ 感染症・医療史	84
⑧ 民衆史	86

(〈前近代編〉目次より)

(2) 短期集中型の活用

一方で、夏季・冬季の長期休業中など、まとまった時間が確保できる期間にも、効率的な活用が狙える。特に2年生の学期末、3年生の夏季休暇は好機である。休暇中の課題として課したり、補習・補講講座の教材としたりと、本書を活用していただくとよいだろう。

3 本書の活用場面

(1) 「歴史総合」「日本史探究」の授業で活用

右の目次のとおり、本書は「日本史探究」の教科書の章立てを参考に、各単元を構成しているため、日々の授業と併走しての活用が可能である。

また、「歴史総合」「日本史探究」では、「生徒が問いを表現する」学習が想定されている。その際は「資料を基に問いを表現する」ことが示されており、資料読解がその基本となる。生徒が良質な問いを表現できるようになるためには、資料の着目点を押さえ、資料の特性を理解しながら正確に読み取る必要がある。本書はその一助となる。

例えば、「歴史総合」の学習において、日本史・世

4 おわりに

資料読解の技能は一朝一夕では身につかない。多くの資料に触れ、学習を続けるなかで獲得できるものである。知識を身につけてから資料問題に取り組むのではなく、本書を活用することで、日ごろから資料読解をとおして知識を定着させられ、学習も効率的になるだろう。

資料読解のスキルは、共通テストをはじめとした大学入試のための勉強にとどまらない。資料を適切に読み解き、根拠を明示しながら文脈に沿って説明する力は、他教科・科目でも求められ、社会の中でも求められる汎用的な能力であろう。

先生方が日ごろ関わる生徒の実態に即して、本書を有効に活用していただきたい。

共通テストに向けた『Winning COM.-PASS 地理の整理と演習』の授業活用例・活用案

地理問題集
『Winning COM.-PASS
地理の整理と演習』



石川県立金沢二水高等学校
教諭
にし ひろ
西 宏 樹



1 はじめに

筆者の勤務校は石川県下有数の進学校であり、大多数の生徒が難関国公立大学や金沢大学をはじめとした中堅国公立大学への進学を希望している。また、2年次から3年次にかけて文理問わず全員が「地理総合・地理探究」を履修することになっている。つまり3年生約400人ほぼ全員が共通テストにおいて「地理総合・地理探究」を受験する現状があり、その多くの生徒は得点率70%以上を望んでいる。このような実情の中、いかに「地理総合・地理探究」を完成させるか、いかに生徒たちに高得点を取らせるか、が喫緊の課題である。

本校ではここ数年『Winning COM.-PASS 地理の整理と演習』（以下、本書）を使用させていただいて

いるが、こちらを活用した授業モデルを以下に紹介していきたい。

2 「地理的思考力」を共有する授業デザイン

(1) 授業スタイル

本校では地誌分野を除く教科書の範囲終了後、9月から本書を使用した演習授業を行っている。地誌分野は現在まで学習してきた復習項目が多いため、演習問題を通じて既習事項の確認を行っていくスタイルを取っている。

筆者はまず、各地域の演習を始める前に「ポイント整理」（資料1）を用いて特に重要となる項目や、授業中に触れられなかった項目をまとめ、生徒に伝え

124

14 東アジア

「ポイント整理」と「演習問題」で実力を高めよう。

ポイント整理 空欄に適語を入れよう。

1 自然環境
次の地域の①～⑧の名称を答えよ。①～⑧は河川、⑨～⑫は緯線である。また、⑬ハルビン、⑭タンタオ、⑮ホンコンの気候区を答えよ。

2 中国の自治区・経済特区・特別行政区
次の地域の、自治区①～④、経済特区⑤～⑦、特別行政区⑧～⑩の名称をそれぞれ答えよ。

14 東アジア 125

4 中国の農牧業…人地社会を解体…① 割を導入へ。

地域	農牧業の特色
東北地方	大豆、コーヤン、春小麦など畑作中心。 ① 川流域では稲作も盛ん。
華北	冬小麦・コーヤン地域。② 流域では棉花栽培も増加。
華中	③ 流域は稲作地帯。中流域のスーチョン盆地は畑作の中心地。 ④ 下流域では夏の栽培も多い。
華南	⑤ 川流域は夏の高温多雨のCw気候を生かし水稲二作地帯。 ⑥ 南西部のユンコイ高原では稲作、サトウキビ、トウモロコシなどの栽培も盛ん。
西部	乾燥地帯→モンゴルで遊牧（主に羊）、チベット高原の遊牧（主に牛）。 西域の乾燥地帯ではオアシス農業、遊牧。

5 中国の経済発展

経済特区	特徴
①	1970年代末の改革・開放政策以降、対外開放促進のため特殊な管理と優遇措置が認められた特別地区。外国資本や技術の導入を目的に、②の4地区を指定。そして③が追加された。④～⑥は下図に対応。
②	経済特区に準ずる 経済技術開発区 として大連、天津、上海など14の沿海開放都市を設置。また、遼東半島開放地帯、山東半島開放地帯、長江デルタ開放地帯、閩南デルタ開放地帯、珠江デルタ開放地帯を設定。外国資本を導入し沿岸部中心に経済急成長（下図参照）。
③	郷（村）・街（町）→個人などが経営する 外国企業 。経済の改革開放政策の地盤で市場経済の中心として急成長。国家として社会主義を堅持しつつも、市場の原理に基づく資本主義的経済が発展。社会主義市場経済という。

●中国の対外経済開放

●中部部の急激な経済発展
→内陸部との経済格差
→人口増大が拡大

▲資料1 ポイント整理

る。その上で演習問題に入っていくのだが、その授業の流れを以下に示したい。

- ① 生徒はあらかじめ演習問題を10問程度予習してくる。
 - ② 特に地理的思考力を要する問題をピックアップし、その問題の解き方をペアで共有する。
 - ③ 問題の見方・考え方の解説を行う。
- 基本はこの①～③を12月まで繰り返していく。

(2) 「地理的思考力」の涵養

『高等学校学習指導要領』には、「地理総合・地理探究」の目標として、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。」と明示されている。このことに鑑み、いわゆる「地理的思考力」を鍛え、共通テストの問題にも臆せず対峙できるようになることを目的として、(1)で示した②・③を授業で実践している。

②に関しては、ただの答え合わせで終わらないよう

に、解き方のプロセスやロジックを話し合うように指導している。問題に対するアプローチは決して一つとは限らず、ともしれば解法も人によって異なってくる。生徒たち自身がこのことに気づくことで、「地理的な見方・考え方」が身につく「地理的思考力」が鍛えられていく。もともと問題演習は教師の解説一辺倒になりがちで、授業のマンネリ化、生徒の飽きに繋がると考え数年前から実践しはじめたが、現在では「思考力が鍛えられる」「クラスの友達がどのような見方・考え方をしているか知ることができて良い」との生徒たちの声があり、概ね好評である。また、ペアの相手に説明する時間は1分程度に設定しているので、限られた時間で地理用語を正しく使用した上で、相手に必要な事項を簡潔に伝える必要があり、要約力や記述力の養成にも期待できる。

③に関しては、本書内に収録されている「演習問題」の一つ(資料2)を取り上げて説明していきたい。

問1(1)の問題は、「@60度」が正解であるが、この経度差を導き出すためにはX・Y両ポイントの経度の知識が必要となる。では、その知識がない場合この問題は正解できないのだろうか？ 答えは否である。X

126

演習問題

問1 次の図を見て、下の問いに答えよ。

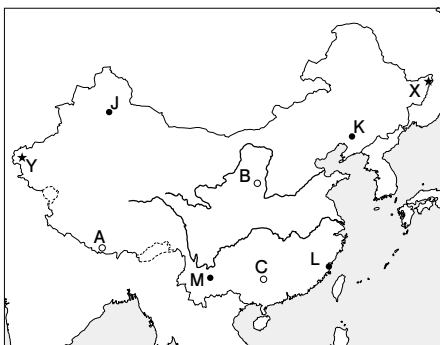


図1

(1) **中国の位置** 図1中に★印で示された中国東端付近の地点Xと、西端付近の地点Yとのおよその経度差として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[05年・本改]

- ① 30度 ② 60度 ③ 90度 ④ 120度

(2) **中国の小地形** 次のア～ウの文は、図1中のA～C付近のいずれかにみられる特徴的な地形について述べたものである。ア～ウとA～Cとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。[17年・本]

- ア 風で運ばれたレスが厚く堆積している高原がみられる。
 イ 石灰岩が侵食されたタワーカルストがみられる。
 ウ 氷河によって形成されたモレーンがみられる。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	A	A	B	B	C	C
イ	B	C	A	C	A	B
ウ	C	B	C	A	B	A

のポイントは地図上から兵庫県明石市とほぼ同一ライン上にあることが分かるので、「東経135度」と導き出せる。Yのポイントは地図上からインド半島の中央部、つまりベンガルール（バンガロール）とほぼ同一ライン上にあることが分かるので、「東経75度」と導き出せる。また、日本とインドの時差が3時間30分であることから経度が推測できる。ちなみにベンガルールは、アメリカ合衆国のシリコンヴァレーに対して昼夜が逆転する。両者が提携することで、インド国内においてICT産業が発達する一大工業都市となった。このことは共通テストにおいて頻出事項であるため、ベンガルールやシリコンヴァレーのおおよその緯経度を知っておくべきことを伝えた上で、両地域が発達した経緯や関係性なども復習しておく。

(2)の問題では、Aの文章に「レス」や「高原」が出てくる。「レス」はゴビ砂漠の土壤が風化・堆積し「ホワンツー（黄土）高原」を形成していること、その「黄土」は偏西風に乗って日本へと辿り着き「黄砂」と呼ばれていること、などを確認する。

このように、一つの問題の解答を導き出すために知識は多ければ多いに越したことはなく、その知識は既習事項がほとんどであることを生徒に伝えている。また、この知識量が不足していると、「地理的な見方・考え方」が狭まり、「地理的思考力」の形成＝共通テストの得点力アップが難しくなっていくことも実感させるように心がけている。

3 おわりに

本書は、「ポイント整理」に各単元の重要事項が簡潔にまとめられており、それに連動した「演習問題」が厳選されている。このため、授業中での使用はもちろん、自学自習にも最適な教材であるといえる。本書を上手く活用することで、生徒の「地理的思考力」を飛躍的に向上させ、共通テストの得点率をアップさせることに繋がると信じてやまない。

共通テスト問題と『フォーラム公共』を利用した授業例…経済学習の導入として「起業」を学ぶ



長野県屋代高等学校
講師

飯塚 和幸

(『フォーラム公共』編集委員)

1 はじめに

起業への関心が高まっている。日本は欧米諸国に比べ開業率が低く、起業する気運が低いといわれてきたが、政府は新規事業を立ち上げるスタートアップ企業を経済成長の原動力と位置づけ、さまざまな支援策により起業を促進しようとしている。起業に関する教育も重視されるようになり、高校の「公共」などの教科書でも起業に関する内容が取り上げられ、入試でも関連する出題が見られるようになってきている。そこで、共通テスト問題を利用しつつ、「起業」を切り口として、必修科目「公共」の経済分野の学習の導入の授業案を考えてみたい。

2 2025年度共通テストより

2025年の共通テスト「公共」では、起業に関する次のような問題が出題された（『フォーラム公共』2026 P.343でも傾向と対策、解説とともに掲載予定）。

問 ある学校では、毎年卒業生による講演会が行われている。今年はビジネスの分野で活躍する卒業生が招かれた。講演会の冒頭で、講演者は社会や環境に配慮した事業の立ち上げ時を振り返り、「起業にはビジネスのアイデアだけでなく、資金調達もまた重要であった」と話した。その話を聞いた生徒Aは、資金調達の方法について調べた。不特定多数から資金を集めて新規事業を立ち上げる場合の、次の資金調達の手段ア～ウとその特徴X～Zの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。（2025「公共」本試）

- ア 株式の発行 イ 社債の発行
ウ クラウドファンディング
X 企業は調達した資金を期日までに返済する義務がある。事業の業績に関わりなく、資金の提供者に対して、確定した金額の利子を支払う。
Y 企業は調達した資金を返済する義務がない。事業の業績に必ずしも関わりなく、資金の提供者に対して、あらかじめ約束した特典などを提供する。
Z 企業は調達した資金を返済する義務がない。事業の業績に応じるかたちで、資金の提供者に対して、各々の出資比率に基づき配当などを配分する。

- ① ア-X イ-Y ウ-Z
② ア-X イ-Z ウ-Y
③ ア-Y イ-X ウ-Z
④ ア-Y イ-Z ウ-X
⑤ ア-Z イ-X ウ-Y
⑥ ア-Z イ-Y ウ-X

（⑥が正解。ア→Z。株式の発行で集められた資金は、出資者（株主）からの「投資」にあたり、企業の自己資本となるので企業は返済する必要がない。イ→X。社債は、企業が資金調達のために発行する債券であり、出資者（社債の購入者）からの「借金」なので返済する必要がある。ウ→Y。クラウドファンディングは、ネットを通して業務の内容や特典（モノやサービスなど）を不特定多数の人々に示し、多くの人から資金を調達しようとする方法。企業は調達した資金を返済する必要はないが、資金提供者にあらかじめ約束した特典を提供する必要がある。）

この問題の中で、次の4つの点に注目した。
「…講演者は①社会や環境に配慮した事業の立ち上げ時を振り返り、「起業には②ビジネスのアイデアだけ

でなく、③資金調達もまた重要であった」と話した。その話を聞いた生徒Aは、資金調達の方法について調べた。④不特定多数から資金を集めて新規事業を立ち上げる場合…」

すなわち、①起業には社会や環境に配慮した事業もあり、②ビジネスのアイデアが重要であること。さらに③資金調達も重要であり、その方法について④不特定多数から資金を集める方法もある点の4つである。

①～④のそれぞれについて授業の中で取り上げる。

3 経済学習の導入例

授業の流れ

(1) 導入

【発問・指示】「起業に関心がありますか？」

「将来、起業してみたいと考えている人は挙手してみてください」

【発問・指示】「次の言葉を知っていますか？」

…「グラミン銀行」、「マイクロファイナンス」、「フェアトレード」（電子黒板に表示する）

*挙手させ、生徒の認知度を確認する。

*3つの用語を説明しつつ環境や貧困など社会問題を解決する一方で収益活動も行う「ソーシャルビジネス」についてふれる（『フォーラム公共』P.221 FOCASを参考）。

FOCUS 活躍する社会起業家

ベンチャー企業などを創業して福祉や教育、環境、貧困、国際協力、地域再生など社会問題を解決する一方で、企業としての収益活動を兼ね備えた革新的な事業のことを「ソーシャルビジネス」といい、その創業者を「社会起業家」という。経済学者で、銀行家のムハマド・ユヌス氏がバングラデシュに設立した「グラミン銀行」はその代表であり、06年にマイクロファイナンス（貧困の解消と自立を促すためのシステムとしての無担保の小口融資）における先駆的功績が評価され、「ノーベル平和賞」を受賞した。その他の注目されるソーシャルビジネスとして、サファイア・ミニー氏が創設した「フェアトレード」ショップ「ピープル・ツリー」が挙げられる。ピープル・ツリーは、コーヒー、バナナ、黒糖といった農産物（一次産品）が中心だったフェアトレードに、デザイン性の高いファッションを取り入れるなどの獨創性が評価されている。

④ バングラデシュの職人の手によって作られた、ピープル・ツリーのドレス
*発展途上国などの産品を適正価格で買い取る

▲『フォーラム公共』P.221 FOCUS

(2) 【発問・指示】「共通テストでは起業に関して次のような問題が出されました。」

*前掲の問題について簡単に解説した上で、問題文中の4つの注目点…①社会や環境に配慮した事業もあ

る、②ビジネスのアイデアと③資金調達が重要、④不特定多数から資金を集める方法もある…を確認する。

(3) 【発問・指示】「起業への関心が高まっており、教科書などでも取り上げられるようになってきました。そこで起業について考えてみましょう。」

*『フォーラム公共』P.174～175を参考に次の点についてグループごとにまとめるよう指示する。

(まとめ用プリント配布、グループワーク)

I 日本の起業の現状

II 起業することの意義

III 起業のリスク

*いくつかのグループに発表させ内容を確認する。

「フォーラム公共」(P174～175)を参考に起業に関し次の点についてまとめなさい。

I 日本の起業の現状

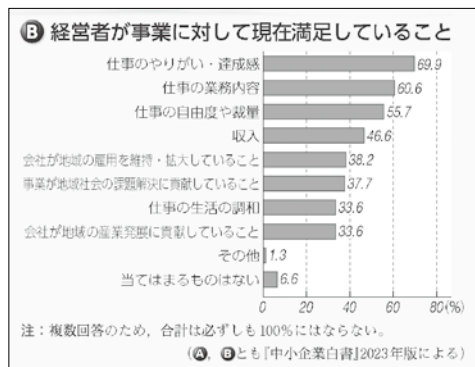
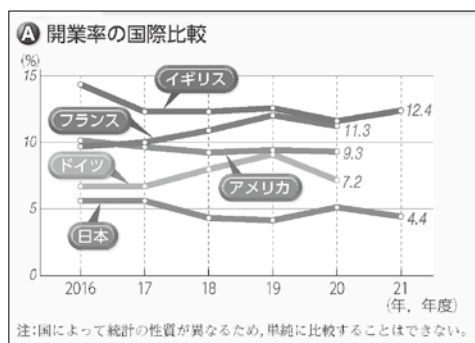
II 起業することの意義

III 起業のリスク

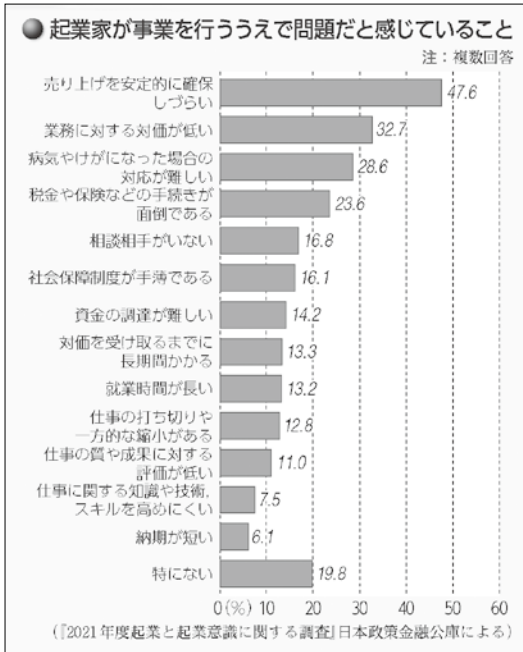
起業への流れ (メモ)

起業の計画
起業のアイデア (誰に、どんな商品またはサービスをどのように提供するのか)

▲まとめ用プリント



▲A, Bともに『フォーラム公共』P.174



▲『フォーラム公共』P.175

(4) 【発問・指示】「起業への流れを確認しましょう。」
 (『フォーラム公共』P.175を参考)

* 起業のリスクの一つとして「資金の調達が難しい」という点に注目する。起業するためには共通テストの問題文にもあった通り、「どんな商品・サービスをどうやって提供するか」というビジネスのアイデアとともに、資金調達も非常に重要であることを確認する。最初から手元に起業資金がない場合には、多くの人から資金を集めなければならないこともおさえる。

(5) 【発問・指示】「多くの人から資金を集めることを前提として、グループごとに起業の計画をたててもらいます。」

* あくまでも経済学習の導入なので、起業のアイデアと資金計画の2点に絞って考えさせる。

(6) 【発問・指示】「グループごとに発表してください。」
 * 発表後、本時の要点を確認し、今後の経済学習が「起業」にもつながることをおさえる。

授業展開案 (55分)

(1) 起業に関心があるか尋ねる。 * 起業には、「ソーシャルビジネス」のように、社会や環境に配慮した事業もあることを確認する (5分)。	『フォーラム公共』 (P.221)
(2) 共通テストの問題例を示し、簡単に解説する (5分)。 * 注目したい4点を確認する。	電子黒板に表示 プリント配布
(3) 『フォーラム公共』を参考に以下の3点についてまとめ、発表 (グループワーク15分)。 Ⅰ 日本の起業の現状 Ⅱ 起業することの意義 Ⅲ 起業のリスク	電子黒板に表示 『フォーラム公共』 (P.174~175) プリント配布
(4) 起業への流れを確認 (5分)。 * 特にビジネスのアイデアと資金計画の重要性を確認 (手元に起業資金がなければ、多くの人から資金を集めなければならない)。	電子黒板に表示 『フォーラム公共』 (P.174~175)
(5) グループごとに起業計画をたてる (グループワーク15分)。 * 起業のアイデアと資金計画に絞って考えさせる。	発表内容を板書
(6) グループごとに発表 (10分)。 * 本時のまとめ、今後の予定	まとめは電子黒板に表示

生徒たちは、この授業を通して「起業」のためには経済に関して幅広く学び、一定の知識を身につけることが重要だと認識できる。このため、その後の経済学習に問題意識をもって取り組むことができる。将来「起業する可能性」を考えながら、現代の企業や市場経済のしくみ、国民所得、金融や財政、労働問題など経済分野の学習を進めていくことによって経済活動全体のイメージがより明確化できると考えられるので、「起業」を最初に学ぶことは「受け身にならない経済学習」につながるといえるだろう。

とうほうnavi
— 社会科情報 — 第11号

2025年10月 発行

代表者 星沢 卓也

編集・発行 とうほう 東京法令出版株式会社

☎112-0002 東京都文京区小石川5丁目17番3号 ☎03(5803)3304
 ☎534-0024 大阪府都島区東野田町1丁目17番12号 ☎06(6355)5226
 ☎062-0902 札幌市豊平区豊平2条5丁目1番27号 ☎011(822)8811
 ☎980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目1番10号 ☎022(216)5871
 ☎460-0003 名古屋市中区錦1丁目6番34号 ☎052(218)5552
 ☎730-0005 広島市中区西白鳥町11番9号 ☎082(212)0888
 ☎810-0011 福岡市中央区高砂2丁目13番22号 ☎092(533)1588
 ☎380-8688 長野市南千歳町1005番地

【営業】 ☎026(224)5411 FAX026(224)5419

【編集】 ☎026(224)5421 FAX026(224)5409

https://toho.tokyo-horei.co.jp/